

公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会



# 公益財団法人 西日本産業貿易コンベンション協会

## I 法人の概要（平成 28 年 4 月 1 日現在）

### 1 所在地

北九州市小倉北区浅野三丁目 8 番 1 号

### 2 設立年月日

昭和 51 年 3 月 25 日

### 3 代表者

理事長 利島 康司

### 4 基本財産

2,366,886 千円

### 5 北九州市の出捐金

1,650,000 千円（出捐の割合 69.7%）

### 6 役職員数

	人 数			
	合 計	うち本市からの派遣	うち本市退職者	うちその他
役 員	10 人	0 人	1 人	9 人
常 勤	1 人	0 人	1 人	0 人
非常勤	9 人	0 人	0 人	9 人
職 員	44 人	6 人	0 人	38 人

### 7 市からのミッション

内外の工業製品等の展示紹介を通じて西日本地域の産業の高度化と貿易の振興に資するとともに、本市におけるコンベンションの誘致、支援等を通じて地域の活性化及び文化の向上に資することにより、本市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献する。

## II 平成 27 年度事業実績

### 1 総 論

西日本屈指の M I C E 開催拠点＝小倉駅新幹線口コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的に M I C E を推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の経済政策を支援し、にぎわいと活力あるまちづくりに貢献するため、以下の方針で事業運営に取り組んだ。

- ・ M I C E 開催の質を高め、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。
- ・ M I C E 開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。
- ・施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供し、目的達成の基盤を整える。

## 【概況】

平成 27 年度は、26 年度に引き続き夏季・冬季のにぎわいイベントを実施したほか、積極的にコンベンションなどの誘致・開催および貸館営業などに取り組んだ。これらの取り組みが奏功し、展示場・会議場ともに稼働率、利用者数で高い実績を確保することができた。

また、収支についてもある程度の黒字を確保し、顧客サービス向上のための施設改修や、老朽化した備品類の更新等についても取り組むことができた。

しかしながら、イベント・コンベンション等の首都圏等への一極集中の進展、さらに周辺他都市では、新たに同様な施設の整備計画が多数同時で並行して進行するなど、中・長期的には楽観できない状況にある。

したがって、引き続き誘致・営業の強化やサービス向上および経営の合理化を図り、これまで以上に自主自立の経営の確立を進めていかなければならない。

## 【指定管理計画の達成状況について】

平成 27 年度は、概ね目標を達成した。施設別に見ると、展示場新館（国際展示場）が、利用件数 166 件・稼働率 84.1%（目標：142 件・72%）、国際会議場が、548 件・90.4%（目標：690 件・89%）であった。

さらに、施設利用者数については、現行の指定管理期間の 2 年目で 100 万人を超え、過去最高を記録した。

引き続き、指定管理計画に掲げた目標の達成に向けて、積極的に誘致・営業活動を展開し、新たな見本市・展示会、イベントの開催実現に向けて総力を挙げて取り組んでいきたい。

## 【平成 27 年度の取り組み】

### ① 主催事業への取り組み

西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の施策や方針と連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。

### ② コンベンション誘致の強化

開催助成金制度を有効に活用し、国際・全国規模の学会・大会・展示会等の誘致に積極的に取り組み、国際コンベンションゾーンの更なる振興を図った。

### ③ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率の向上に向け、より対象エリア・業界を広げた積極的な営業を推進した。併せて、施設利用者への集客や広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努めた。また、特に閑散期における利用者増・収入増を目的とした取り組みも行った。

### ④ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベント開催の検討

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップと賑わいづくりにつながるイベントや事業などを一体的に開催することを検討し、「あるあるCity」「あさの汐風公園」「北九州スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行った。

### ⑤ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や施設の快適な利用環境を確保し、一層のお客様サービスの向上、安全・安心を目指した施設設備の改善・充実に努めた。

また、展示場の利用者増および収入増を目的に、平成 26 年度に新設したスポーツ利用料金や他都市施設との相互利用割引料金を活用した。

⑥ 西日本総合展示場本館の改修等

北九州スタジアムに対応する環境整備を進めたほか、消防設備や雨漏れなど状態の悪い箇所から逐次回収を実施した。

⑦ 公益社団法人北九州市観光協会との合併に向けた検討の着手

組織基盤の強化を図り、MICE誘致及び観光振興をより一層推進するため、公益社団法人北九州市観光協会との合併に向け、検討に着手した。

見本市・展示会事業（公益目的事業）

2 主催・共催事業

- (1) 西日本地域の経済活性化や産業・貿易の振興に寄与するため、国や地域の行政機関等の方針や施策との連携を図りながら、各種の見本市・展示会等を企画・開催した。展示会等を取り巻く環境変化に対応するため、平成 25 年度より事業統廃合を進めると同時に、国や地方公共団体の政策展開の場としての展示会のテーマ開発や国際化の促進とともにビジネス取引拡大の場づくりなどにより、事業の再構築を進めている。

◆当協会が主催・共催した主な見本市・展示会

( ) 内は 26 年度実績

事業名	開催期日	入場者数	出展社数
西日本インポートフェア&食メッセ 2015	5月2日 ～6日	43,999人 (48,298)	197社・団体 (194)
西日本製造技術イノベーション 2015	6月17日 ～19日	15,096人 (15,203)	58社・団体 (46)
第41回ふくおか産業技術振興展			23社・団体 (23)
第37回西日本陶磁器フェスタ 第23回日本陶芸展 九州展	9月19日 ～23日	55,727人 (49,855)	209社 (205)
エコテクノ 2015～地球環境ソリューション展～	10月7日 ～9日	28,432人 (54,008)	86社・団体 (98)
エコテクノ 2015～エネルギー先端技術展～			99社・団体 (113)
エコ・ベンチャー・メッセ 2015			24社・団体 (36)
中小企業テクノフェア in 九州 2015			71社・団体 (64)
P. P. C. 2015 第17回西日本国際福祉機器展	10月29日 ～31日	21,003人 (26,406)	151社・団体 (130)
S A F E T E C 2015 〔第1回西日本防災・防犯危機管理展〕	11月19日 ～21日	10,052人	85社・団体

合 計	10 事業 (9 事業)	174,309 人 (193,770)	1,003 社・団体 (909)
-----	-----------------	------------------------	---------------------

#### 【事業の効果的な推進に向けた主な取り組み】

##### ア 見本市・展示会の再構築

各展示会の目的や意義と社会・経済情勢などを勘案しながら、常に開催内容を見直しつつ、関心を高める努力を行った。

##### ○ 「西日本製造技術イノベーション」におけるロボット産業振興の取り組み

北九州ロボットフォーラム定期総会記念講演と併せて、今後、求められるロボットのあり方についてのセミナーを開催した。また、26年度に引き続き北九州市が推進する「産業用ロボット導入支援制度」の紹介や地元中小企業への産業用ロボットの普及促進を目的とした特別展示、セミナーを併催した。

##### ○ 「エコテクノ」の一体開催

26年度に同時開催した「エコテクノ／エコ・ベンチャー・メッセ」と「再生可能エネルギー先端技術展」を、福岡県、北九州市、九州経済産業局、当協会の主催4社で協議を行った結果、「エコテクノ2015～地球環境ソリューション展／エネルギー先端技術展～」として一体開催し、来場者の利便性や回遊性の向上をはかった。

##### ○ 「エコテクノ」出展内容の拡大・強化

26年度に引き続き、「先端農業・植物工場推進コーナー」を九州農業成長産業化連携協議会との共催でエコテクノのフェアインフェアとして開催した。

##### イ 国際化の推進

国内市場が縮小するなか、海外との取引拡大の機会提供に注力した。

##### ○ エコテクノ～地球環境ソリューション展～国際環境ゾーン

環境を軸とした産業の活性化に寄与することを目的に、エコテクノ2015において国際環境ゾーンを展開した。海外企業8社、2団体と海外投資支援機関1機関の出展により、商談と情報発信を実施した。

##### ウ 成果のあがる展示会の構築

主催展示会での販売促進や商談の支援のため、出展社とユーザーとの橋渡しに努め、より大きな成果が得られるように会期前後の活動を強化した

##### ○ 中小企業テクノフェア in 九州 2015 ビジネスマッチング事業

大手企業OBの技術者で構成する「NPO法人北九州テクノサポート」と連携し、中小企業テクノフェア出展社の技術とノウハウを理解した上で、地元企業とのビジネスマッチングを促進した。

##### ○ 製造技術マッチングフェア（商談会）の開催

「西日本製造技術マッチングフェア」、「ふくおか産業技術振興展」、「ロボット産業マッチングフェア北九州」の出展社を対象に、マッチングについては福岡県中小企業支援センターの協力を得て開催した。

- (2) 主催事業と並行して関連するセミナー、シンポジウムを開催した。(138 テーマ、参加者数：6,480 人)

### 3 関係団体との連携事業

#### (1) 主催事業における産学官連携

主催事業のうち、産業技術分野の展示会では、国、県、北九州市や大学、関係団体、研究機関等と連携し、効果的な事業推進を図った。

#### (2) アジアとの連携・交流

##### ア 韓国BEXCOとのMOU締結

平成 27 年 10 月に韓国釜山広域市のBEXCO（釜山国際展示場）とMOUを締結した。当協会の展示・コンベンション事業等の国際競争力の強化や九州地域全体のアジア展示会等への進出ニーズへの対応などの取り組みを開始した。

##### イ アジアの関係団体等への展示会出展誘致活動の充実

エコテクノに韓国大田広域市の福岡通商事務所を通じて韓国の環境系企業 6 社が出展し、エコテクノへの出展企業や来場企業との商談を実施した。また、韓国BEXCO（釜山国際展示場）の主催する「ENTECH釜山」とのブース交換により韓国企業 2 社が出展した。さらに、西日本国際福祉機器展内にて「KORECA」のPRブースを設けた。その他、西日本製造技術イノベーション 2015 においても（公財）福岡県中小企業振興センターを介して韓国大田広域市より 11 社・団体が出展した。

当協会からは、「ENTECHハノイ」、「ENTECH釜山」、「KORECA2015」にブース出展した。ハノイでは 5 社、釜山では 1 社の企業が参加し、アジア地域での取引拡大を図った。

##### ウ 福岡県・北九州市との連携

エコテクノ会期中、福岡県・北九州市と協力して、環境技術の輸出促進や国際競争力の強化を図ることを目的に、「ベトナム環境ビジネスセミナー」を実施した。

#### (3) 新規見本市の開発

##### ア 発酵ジャパン in 九州 2015 の開催

北九州市食の魅力創造・発信室の要請により、北九州市の名物である「ぬかだき」のPRと食の市場を醸成するために「発酵ジャパン in 九州」の企画、開催に取り組んだ。会場では、北九州市内の大学とボランティアで発酵食品の料理コンテスト「ヌカオブザイヤー」を開催し、会場を盛り上げた。

## 会議・大会等（公益目的事業）

### 4 誘致・支援事業

- (1) MICEにおける国際競争力の強化が喫緊の課題となるなか、我が国の新たな方策である観光庁のグローバルMICE強化都市に、北九州市は平成 27 年 6 月に選定された。これを機に、国際会議誘致に向けた新たな取り組みに着手し、新たな誘致のフィールドを開拓した。なお、観光庁が作成した「MICE開催による経済波及効果測定モデル」によれば、27 年度の当協会

の誘致案件のみによる経済波及効果（間接 2 次波及効果、雇用効果を含む）の推計値は 106 億 4410 万円であった。

◆年度別開催件数の推移 (単位：件)

区 分	国際	全国	その他	合計
27 年度	75	91	113	279
26 年度	63	103	132	298
25 年度	37	102	89	228

◆年度別参加者数の推移 (単位：人)

区分	国際	全国	その他	合計
27 年度	47,906	108,105	63,191	219,202
26 年度	49,207	75,054	79,018	203,279
25 年度	20,016	124,997	53,130	198,143

(2) 国際規模をはじめとする学会・大会等の誘致に積極的に取り組んだ結果、27 年度の開催状況は、279 件となった。

また、これらの誘致活動および開催助成金の効果として、28 年度以降に合計 136 件（28 年 3 月 31 日現在）のコンベンションが予定されている。

◆平成 27 年度開催の主な会議・大会

規模	名 称	開催時期	会 場	規模（国・人数）
国際	LAMP2015 第 7 回レーザ先端材料加工国際会議	H27 年 5 月	国際会議場	1,307 人 (23 カ国 716 人)
	アジアボディビル&フィットネス選手権 2015	H27 年 6 月	西日本総合展示 場	1,645 人 (20 カ国 1345 人)
	International Conference on Informatics, Electronixs & Vision 2015	H27 年 6 月	国際会議場	380 人 (13 カ国 212 人)
	第 142 回日本歯科保存学会 2015 年春季学術大会	H27 年 6 月	国際会議場 西日本総合展示 場	3,000 人 (6 カ国 60 人)
	2015 年 第 4 回村上春樹国際シンポジウム	H27 年 7 月	国際会議場	680 人 (5 カ国 282 人)
	第 49 回フラーレン・ナノチューブ・ グラフェン総合シンポジウム	H27 年 9 月	国際会議場	1,100 人 (7 カ国 112 人)
	公益社団法人自動車技術会 2015 年秋季大会	H27 年 10 月	国際会議場 A I M	4,645 人 (3 カ国 9 人)



	第 10 回アジアドラマカンファレンス in Kyushu	H27 年 11 月	リーガロイヤル ホテル	450 人 (6 カ国 360 人)
	International Conference on Low Carbon City Design and International Workshop	H28 年 2 月	北九州学術研究 都市	540 人 (9 カ国 410 人)
全国	第 58 回日本糖尿病学会 年次学術集会	H27 年 5 月	門司港ホテル	6,303 人
	第 74 回日本消化器内視鏡技師学会	H27 年 5 月	西日本総合展示 場	1,670 人
	全国生活指導研究協議会 第 57 回全国大会	H27 年 8 月	北九州市立大学	1,319 人
	第 55 回全国国公立大学卓球大会	H27 年 8 月	市立総合体育館	5,200 人
	日本オペレーションズ・リサーチ学会 2015 年秋季シンポジウム・秋季研究発 表会	H27 年 9 月	九州工業大学	647 人
	第 52 回全国港湾労働災害防止大会	H27 年 10 月	北九州芸術劇場	1,400 人
西日本	第 65 回西日本学生体操選手権大会	H27 年 5 月	市立総合体育館	4,500 人
	平成 27 年度第 55 回西日本学生 バドミントン選手権大会	H27 年 9 月	メディアドーム 市立総合体育館	8,500 人
九州	第 1 回日本心臓リハビリテーション学 会九州地方会	H27 年 10 月	黒崎ひびしんホ ール	520 人
	第 56 回日本肺癌学会九州支部学術集 会・第 39 回日本呼吸器内視鏡学会九州 支部総会	H28 年 2 月	国際会議場	564 人

- (3) 主催・共催事業については、北九州国際会議場の大型ハイビジョンを活用した映画の上映や俳句等の文化事業や異業種交流を目的とした事業や小倉駅新幹線口にぎわいづくり事業など、子どもから年長者まで幅広い年齢層を対象にした特色のある各種事業を実施した。

◆イベント・大会等の企画、開催（主催・共催）

※（ ）内は 26 年度実績

事業名	開催期日	入場者数
小倉まちづくりミーティング泡盛ナイト in こくら	H27 年 9 月 29 日 H28 年 2 月 2 日	延べ 400 人 (延べ 440 人)
夏休みこどもシアター	H27 年 7 月 26 日	263 人 (464 人)

冬休みこどもシアター	H27年12月23日	327人 (371人)
第15回全国女性俳句大会	H28年3月5日 ～3月6日	1,485人 (1,513人)
第24回北九州将棋フェスティバル	H28年度に順延	0人 (710人)

### 貸館利用者の誘致・営業強化

#### 5 営業体制の強化

##### (1) 既存利用者の利用定着化及び過去の利用者の利用復活

過去の展示場の顧客データを分析するとともに、利用頻度が減少等している顧客に対し、定期訪問による施設利用の働きかけや集客支援などの提案営業を実施し、結果として2件の利用の復活を実現した。

##### (2) 新規利用者の開拓

パソコンや農業、食品関連など22件の新規展示会や講習会等を開催した。

##### (3) 大規模イベントの実施

10月に「東京ガールズコレクション」を初開催、3月に「西日本釣り博2016」を約19年ぶりに開催した。

#### ◆27年度 新規及び利用が復活した展示会・見本市等の誘致実績

催事名	会期
ミールソリューションフォーラム 2015 福岡	H27年5月20日～21日
ニティランドセル展示会	H27年7月5日
新商品内覧会	H27年7月13日
ヤンマー2015 アグリ大展示会	H27年7月15日～18日
パソコン基礎講習	H27年7月29日～8月7日
資金運用セミナー	H27年8月7日
北九州ゆめみらいワーク	H27年8月28日～29日
秋・冬メニュー食材展示商談会	H27年9月10日
パーキンソン病市民公開講座 in 北九州	H27年9月13日
CLIMAX of DARTS VOL12	H27年9月13日
平成27年度「全国ロープレ大会」(※復活)	H27年9月28日～29日
東京ガールズコレクション	H27年10月17日
秋の夢博(※復活)	H27年10月23日～26日
西日本釣り博2016 出展説明会	H27年10月26日
パソコンビジネス活用講習	H27年11月2日～6日
中小企業新ものづくり・新サービス展2015 出展説明会	H27年11月13日

マンション管理員講習	H27年11月20日
中小企業新ものづくり・新サービス展 2015	H27年12月7日～9日
講習&ワークショップ	H27年12月19日～20日
シニアワークプログラム パソコン基礎講習	H28年2月4日～16日
KYUSHU MASTERS CUP in KITAKYUSHU	H28年2月7日
第7回ライト電業オリジナル展示会 2016	H28年2月16日
西日本釣り博 2016	H28年3月19日～20日
シニアワークプログラム地域事業 就職支援	H28年3月25日～30日

## 6 閑散期対策等のイベントコーディネート

### (1) 閑散期対策にぎわいイベント

夏季・冬季ににぎわいイベントを実施した。夏季には「トミカ博 in KITAKYUSHU」「巨大いきもの大冒険!!」、冬季には「チャギントンランド in 北九州」「日本全国!鉄道ひろば 2016 in 北九州」開催した。夏季・冬季のにぎわいイベントで、合計18万人の入場者数を記録した。

### (2) ビジネスイベントのコーディネート

北九州市が主催となり初開催した「発酵JAPAN in 北九州」と、デジタルものづくりクリエイターの祭典「北九州モノカフェ 2015」(公益財団法人九州ヒューマンメディア創造センター主催)、「第4回北九州EXPOフリマ」を同時開催することで、2日間で約3万人の入場者数となった。ビジネスイベントのコーディネートを行うことで、新規のイベントの開催を促進した。

#### ◆営業 閑散期対策・ビジネスイベント等 (H27年度)

名 称	日 程	入場者数
トミカ博 in KITAKYUSYU	7/17～22	58,799名
巨大いきもの大冒険!!	8/1～31	48,677名
発酵JAPAN in 北九州	11/7～8	12,900名
北九州モノカフェ 2015	11/7～8	8,000名
第4回北九州EXPOフリマ	11/8	8,200名
チャギントンランド in 北九州 2016	1/2～4、1/9～11	35,694名
日本全国!鉄道ひろば 2016 in 北九州	1/2～4、1/9～11	37,712名
合 計		209,982名

## 広報・宣伝、地域連携

### 7 広報、宣伝

ホームページを見やすく迅速な情報発信ができるようリニューアルした。トップページでの展示場や会議場で開催されるイベントの最新情報の提供をはじめ、施設の紹介、協会の主催事業やコンベンション誘致に関する情報を提供した。

## 8 地域連携

小倉駅新幹線口エリアの地域振興団体と共同で、異業種交流会や地域清掃イベント等を行うなど、地域の一体感形成に向けた活動やにぎわいづくりにも取り組んだ。

さらにJR主要駅に近接しているという施設の特徴を生かすため、JR九州及びJR西日本との連携による、効果的な主催事業等のPRを行った。

## 管理・運営

### 9 お客様満足度の向上

#### (1) サービスの向上

当協会ホームページ上からの申請書ダウンロードを可能にし、業務の効率化を行ったほか、現場でのツール作成の支援や消耗品の提供等、お客様の安心と信頼を得る取り組みを行った。

#### (2) 職員の資質・能力の向上

専門講師を招いた事業企画書作成などの職場内研修、民間研修機関主催の管理職セミナーへの職員派遣、「国際会議場施設協議会」や「全国展示場連絡協議会」の担当者レベルの実務セミナーへの参加等を行った。

実務面でも日頃の現場での経験を積むことで職員の危機管理に対する意識とスキルをさらに高めることができた。

### 10 利用料金制度の活用

平成26年度に新設したスポーツ利用及び名古屋市の施設との相互利用割引制度が利用されはじめた。今後もこれらの特別料金制度を活用することで、さらなる施設の利用を促進する。

### 11 管理業務の効率化

消費電力の削減やLED化による電力使用料金の低減や、メーカー保証期間を勘案した上で点検回数を改めるなど委託費全般について節減に努めた。

### 12 施設の改修等

お客様の利便性、安全性の向上等を図るため、施設設備の改修更新等を行った。

\*展示場本館：雨漏り防止と消防設備の改修等工事、

ガスヒートポンプ空調設備の更新の準備

\*展示場新館：地下駐車場精算機管理システム、外壁の照明器具更新等工事

\*国際会議場：メインホール音響設備改修等工事

壁面塗装、貸出用ICレコーダー・会議用長机購入等

### 13 施設の稼働率等

#### ◆西日本総合展示場本館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
27年度	72	279	77.5	30
26年度	70	277	78.7	40
25年度	67	240	65.8	32

#### ◆西日本総合展示場新館の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
27年度	166	297	84.1	65
26年度	159	281	81.7	46
25年度	170	284	78.2	50

#### ◆北九州国際会議場の利用状況

区分	件数 (件)	稼働日数 (日)	稼働率 (%)	入場者数 (万人)
27年度	548	319	90.4	7
26年度	577	321	91.5	7
25年度	513	317	88.3	7

### 14 合併に向けた検討の着手

組織基盤の強化、拡充を図り、MICE誘致及び観光振興をより一層推進するため、公益社団法人北九州市観光協会との合併に向け、検討に着手した。

### 15 指定管理

指定管理期間（26年度から30年度）の2年目であった27年度は、指定管理計画に掲げた目標（来場者数（展示場・会議場）75万人、コンベンション誘致件数185件など）を概ね達成（来場者数102万人、コンベンション誘致件数257件など）した。

### Ⅲ 平成 27 年度決算

#### 1 貸借対照表(総括表)

平成 28 年 3 月 31 日現在 (単位: 円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	321,872,787	210,161,748	111,711,039
未収金	29,080,781	56,122,184	▲27,041,403
繰延税金資産(短期)	2,721,000	2,298,000	423,000
立替金	36,433	2,000	34,433
仮払金	15,531,165	5,380,397	10,150,768
流動資産合計	369,242,166	273,964,329	95,277,837
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
建物	400,439,131	427,995,104	▲27,555,973
建物附属設備	4	4	0
構築物	345,517	431,895	▲86,378
機械及び装置	35,688,192	42,227,650	▲6,539,458
基本財産引当資産	760,861,242	860,781,234	▲99,919,992
減価償却引当資産	1,169,552,126	1,143,521,492	26,030,634
基本財産合計	2,366,886,212	2,474,957,379	▲108,071,167
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	160,351,470	155,004,461	5,347,009
減価償却引当資産	32,212,349	32,212,349	0
目的事業引当資産	625,076,525	625,067,525	9,000
事業開催引当資産	7,650,000	7,650,000	0
施設耐震等修繕費用準備資金積立資産	75,000,000	75,000,000	0
施設耐震等改修工事引当資産	46,000,000	0	46,000,000
主催事業強化費用準備資金積立資産	10,000,000	10,000,000	0
付帯施設設置費用準備資金資産	0	13,000,000	▲13,000,000
施設利用促進設備費用準備資金積立資産	0	27,000,000	▲27,000,000
企画展開催費用準備資金積立資産	0	1,830,000	▲1,830,000
誘致事業強化費用準備資金積立資産	6,100,000	6,100,000	0
施設サイン改善費用準備資金積立資産	0	32,400,000	▲32,400,000
駐車場建設費用準備資金積立資産	0	15,000,000	▲15,000,000
広報宣伝強化費用準備資金積立資産	40,000,000	0	40,000,000
特定資産合計	1,002,390,344	1,000,264,335	2,126,009

(3) その他固定資産			
建物	2,878,786	2,989,351	▲110,565
構築物	2,190,461	2,405,165	▲214,704
車両運搬具	2,495,825	3,654,838	▲1,159,013
什器備品	568,989	731,171	▲162,182
ソフトウェア	180,000	234,000	▲54,000
繰延税金資産（長期）	98,000	370,000	▲272,000
その他目的有価証券	60,000	45,000	15,000
その他固定資産合計	8,472,061	10,429,525	▲1,957,464
固定資産合計	3,377,748,617	3,485,651,239	▲107,902,622
資産合計	<b>3,746,990,783</b>	<b>3,759,615,568</b>	<b>▲12,624,785</b>
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	140,653,414	100,146,992	40,506,422
前受金	18,716,154	23,026,443	▲4,310,289
預り金	11,764,143	11,736,495	27,648
仮受金	1,118,550	192,500	926,050
未払法人税等	30,351,200	22,149,600	8,201,600
賞与引当金	11,531,565	10,719,849	811,716
流動負債合計	214,135,026	167,971,879	46,163,147
2. 固定負債			
退職給付引当金	160,351,470	155,004,461	5,347,009
固定負債合計	160,351,470	155,004,461	5,347,009
負債合計	<b>374,486,496</b>	<b>322,976,340</b>	<b>51,510,156</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
寄付金	756,000,000	856,000,000	▲100,000,000
展示場設備受贈益	436,472,844	470,654,653	▲34,181,809
基本財産運用益	4,861,242	4,781,234	80,008
指定正味財産合計	1,197,334,086	1,331,435,887	▲134,101,801
（うち基本財産への充当額）	(1,197,334,086)	(1,331,435,887)	(▲134,101,801)
（うち特定資産への充当額）	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産	2,175,170,201	2,105,203,341	69,966,860
（うち基本財産への充当額）	(1,169,552,126)	(1,143,521,492)	(26,030,634)
（うち特定資産への充当額）	(842,038,874)	(845,259,874)	(▲3,221,000)
正味財産合計	<b>3,372,504,287</b>	<b>3,436,639,228</b>	<b>▲64,134,941</b>
負債及び正味財産合計	<b>3,746,990,783</b>	<b>3,759,615,568</b>	<b>▲12,624,785</b>

## 2 正味財産増減計算書（総括表）

自 平成 27 年 4 月 1 日

至 平成 28 年 3 月 31 日（単位：円）

	当 年 度	前 年 度	増 減
<b>I 一般正味財産増減の部</b>			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	12,701,511	15,017,272	▲2,315,761
展示場設備受贈益	34,181,809	34,990,254	▲808,445
特定資産運用益	3,892,279	3,728,500	163,779
受取会費	4,633,200	4,968,000	▲334,800
事業収益	605,766,416	568,087,769	37,678,647
受取補助金等	306,758,089	317,348,573	▲10,590,484
受取負担金	66,023,878	61,318,718	4,705,160
雑収益	18,798,391	18,011,520	786,871
経常収益計	1,052,755,573	1,023,470,606	29,284,967
(2) 経常費用			
事業費	940,343,669	910,466,360	29,877,309
管理費	12,244,842	11,844,571	400,271
経常費用計	952,588,511	922,310,931	30,277,580
当期経常増減額	100,167,062	101,159,675	▲992,613
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
車両運搬具売却益	0	205,040	▲205,040
その他経常外収益	0	0	0
経常外収益計	0	205,040	▲205,040
(2) 経常外費用			
車両運搬具除去損	0	1	▲1
什器備品除去損	2	0	2
その他経常外費用	0	0	0
経常外費用計	2	1	1
当期経常外増減額	▲2	205,039	▲205,041
他会計振替額	0	0	0
法人税、住民税及び事業税	30,351,200	22,149,600	8,201,600
法人税等調整額	▲151,000	40,000	▲191,000
<b>当期一般正味財産増減額</b>	<b>69,966,860</b>	<b>79,175,114</b>	<b>▲9,208,254</b>
一般正味財産期首残高	2,105,203,341	2,026,028,227	79,175,114



一般正味財産期末残高	2,175,170,201	2,105,203,341	69,966,860
<b>II 指定正味財産増減の部</b>			
基本財産運用益	4,435,516	6,774,338	▲2,338,822
一般正味財産への振替額	38,537,317	41,604,576	▲3,067,259
基本財産返還額	100,000,000	0	100,000,000
当期指定正味財産増減額	▲134,101,801	▲34,830,238	▲99,271,563
指定正味財産期首残高	1,331,435,887	1,366,266,125	▲34,830,238
指定正味財産期末残高	1,197,334,086	1,331,435,887	▲134,101,801
<b>III 正味財産期末残高</b>	3,372,504,287	3,436,639,228	▲64,134,941

## IV 平成 28 年度事業計画

### 1 総論

当協会を取り巻く中長期的な経営環境は厳しい状況にある。数年後には、周辺都市に、展示場やコンベンション施設の新・増設が予定されており、誘致競争が、よりいっそう激化するものと思われる。

また、平成 29 年 4 月 1 日を目標として、公益社団法人北九州市観光協会との統合を前提とした協議を進めている。各種連携事業の実施等、結びつきを強め、統合後の相乗効果が発揮できるように取り組まなければならない。

したがって、引き続き、誘致・営業活動等を強化し、収入増や施設稼働率の向上を目指すとともに、経営の効率化を一層進め、これまで以上に自主自立の経営を確立していかなければならない。

#### 【協会の活動】

当協会の役割は、西日本屈指の M I C E 開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝を一体的に運営し、積極的に M I C E を推進することにより、産業振興・国際化の推進・にぎわいづくりで北九州市の新成長戦略などの政策を支援し、にぎわいと活力あふれるまちづくりに貢献していく。そのため、引き続き次の 3 つの基本理念に基づき、事業を推進する。

#### ア M I C E 開催の質を高め、産業振興・国際化を推進

- ・公益財団法人としての組織力・信用力の活用
- ・M I C E 研究の深化による専門性と M I C E 開催誘致の競争力向上
- ・環境変化に対応した主催事業のリニューアルと新規開発研究
- ・先進国際コンベンション施設との提携と共同事業の実施
- ・地域に必要な高品質なコンテンツの提供と情報発信力向上

に取り組み、産業振興・国際化を推進し、地域の発展に貢献する。

#### イ M I C E 開催の多様性を高め、にぎわい・活力づくりを展開

- ・北九州地域における M I C E 開催によるビジターズインダストリー（集客産業）の積極的な推進
- ・主催事業のイベント分野への新規参入、イベント営業強化
- ・有効な広報宣伝の実施
- ・他団体・他施設との連携によるエリアマネジメント

に取り組み、市内外からの集客力を向上し、地域への経済波及効果を増進する。

#### ウ 施設の付加価値を高め、利用者ニーズに合致した利用環境・サービスを提供

- ・小倉駅新幹線口コンベンション施設と西日本総合展示場 3 施設一体運用
- ・利用者視点からのきめ細かなサービスの提供と向上
- ・ユニバーサルデザイン等による施設・設備機能の改善
- ・ハード・ソフト両面でおもてなしの心の反映

に取り組み、多様な利用者ニーズに合致した施設づくりを推進し、目的達成の基盤を整える。

#### 【28 年度の取組概要】

#### ア 協会主催事業の強化

北九州市の新成長戦略やまち・ひと・しごと創生総合戦略の動向を踏まえながら、国際化の対応、産業貿易の振興やにぎわいの創出、社会課題への対応に貢献する協会主催事業を開発・推進する。

(7) 産業貿易振興型の主催事業の開発・推進

エコテクノ・福祉機器展などの既存事業について、企画内容の充実、出展企業の増加を図るなど、事業の質を高める取組みを進める。

また、新規展示会を開発していくために、国・福岡県・北九州市の動向を踏まえた事業協力体制の構築や地方創生に向けた6次産業・食・観光などの展示会開発を地域経済団体等と協同で着手する。

(8) にぎわい創出型の主催事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、ファミリー・イベントの開催を行うとともに、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

イ 韓国釜山広域市BEXCOとの連携の促進

27年度に締結した韓国釜山広域市にあるBEXCOとのMOUに基づき、展示会のグローバル化への対応を進める。アジアに市場を求める国内企業支援や展示会の相互出展協力や新たな展示会の開発、将来的な人材交流など協会の国際化を推進する。

ウ コンベンション誘致の強化

国際・全国規模の大会・展示会の誘致に取り組む。スポーツ大会や入学式等での展示場利用の拡大などに積極的に取り組み、西日本屈指のMICE開催拠点＝小倉駅新幹線口国際コンベンションゾーン＝の更なる振興とにぎわいづくりに貢献する。また、市のMICE開催助成金の戦略的な運用のほか、地域の文化・観光関連団体・施設との連携、他都市と連携した広域的な誘致戦略も推進する。

エ 積極的な営業活動の実施

施設稼働率、利用者数等の向上に向け、既存の利用者の定着化、潜在的な顧客の掘り起こしを目的とした積極的な営業を推進する。併せて、施設利用者への広報支援等を充実させるなど、さらなるサービスの向上に努める。また、特に、閑散期における利用者増・収入増を目的に、親子を対象としたにぎわいイベントなどの企画・開催に積極的に取り組む。

オ 小倉駅新幹線口地区魅力アップイベントの誘致、開催

同地区の企業・団体などと連携して、当該地区の魅力アップとにぎわいづくりにつながるイベントや事業などを開催することを検討していく。

「あるあるCity」、「あさの汐風公園」、「北九州スタジアム」など地域の資源を活用した事業を展開するため、イベントの誘致や共同開催に向けた取り組みを行う。

カ お客様満足度の向上

質の高い貸館サービスの提供や快適な利用環境を確保するため、フロア案内の充実や手続き業務の効率化、簡素化を図ること等を検討する。また、人材育成に努め、接客力の充実を図り、施設利用者の利便性・満足度の向上に努める。

キ 西日本総合展示場などの施設の改修等

建築後38年を経過する本館について、劣化等に対応した維持補修を着実に進めるとともに、

耐震診断の調査結果にもとづく施設改修の具体的な準備を進める。

ク 本館開館 40 周年及び合併記念式典の開催準備

29 年度に西日本総合展示場本館開館 40 周年を迎えるほか、公益社団法人北九州市観光協会との統合を予定し、記念式典を開催することとしている。28 年度に記念式典を開催するための準備を行う。

【指定管理計画の目標実現に向けて】

平成 28 年度は指定管理期間の 3 年目を迎える。指定管理計画に掲げる目標（28 年度：来場者数（展示場・会議場）76 万人、コンベンション誘致件数 190 件など）を着実に達成するため、計画的・組織的な取り組みを進める。

2 各論

見本市・展示会事業

(1) 産業・貿易振興型の既存事業の充実

平成 28 年度は、「エコテクノ 2016」など、9 事業を開催し、地域の産業・貿易の振興に努める。

《平成 28 年度開催の事業（新規事業を含む）》

業 名	開催期日	入場目標	出展目標
西日本製造技術イノベーション 2016	6 月 15 日	20,000 人	60 社・団体
第 42 回ふくおか産業技術振興展	～17 日		30 社・団体
第 38 回西日本陶磁器フェスタ	9 月 15 日 ～19 日	50,000 人	200 社
エコテクノ 2016 (地球環境ソリューション展)	10 月 12 日 ～14 日	30,000 人	110 社・団体
エコテクノ 2016 (エネルギー先端技術展)			110 社・団体
エコ・ベンチャー・メッセ 2016			25 社・団体
中小企業テクノフェア in 九州 2016			50 社・機関
S A F E T E C 2016 第 2 回西日本防災・防犯危機管理展	11 月 10 日 ～11 日	10,000 人	150 社・団体
P . P . C . 2016 第 18 回西日本国際福祉機器展	11 月 24 日 ～26 日	30,000 人	130 社・団体
合 計	9 事業	140,000 人	865 社・他

《企画内容の充実》

■ 『西日本陶磁器フェスタ』の企画充実

→全国で最古参の陶磁器展示会として、陶磁器をテーマとする各種企画展の併設や、恒例の

「ロールケーキフェスタ」を同時開催。商取引の促進や地域のにぎわいづくりを目指す。

■『エコテクノ』の強化

→主催機関で連携を強化し、営業活動に取り組む。水ビジネスやバイオマス等の分野に視点を広げるほか、ビジネスマッチングを充実し、成果の上がる展示会として、魅力向上に努める。

■『SAFETEC2016 第2回西日本防災・防犯・危機管理展』の内容充実

→27年度に日刊工業新聞と共同で九州初開催した同展示会について、出展営業の強化、広報戦略や特別企画の見直し等で内容の充実、定着を図る。

《国際ビジネスの推進》

■韓国釜山広域市BEXCOとの連携

→27年度に締結したMOUに基づき、相互出展の拡大と海外展示会への出展、展示会の開催調査、新規事業の開発に取り組む。

(2) インキュベーション型の事業の開発・推進

新たな産業・ビジネスモデルの創造を支援するため、北九州市と協力して新規展示会（6次産業分野・デジタルものづくり関連など）の開発を行う。またIoTやロボット関連、医工連携など様々なテーマのフェアインフェアやセミナーなどを行い、新規展示会の開催ニーズを探索する。

《新規事業の展望》

■『西日本インポートフェア&食メッセ』後継事業の企画・開発

→平成28年度は、後継事業となる新規企画について、事業開発のための調査研究、関係機関へのヒアリング等を行い、29年度の開催を目指す。

■『ロボット総合産業フェア（仮称）』を企画展として開催

→西日本製造技術イノベーション2016にて企画コーナーを設ける。

■『地域ニーズを捉えた新規企画』の開催

→当協会の主催事業のノウハウを提供することで、地域のニーズを捉えた主催形態にこだわらない展示会・イベントを開催する。

(3) にぎわい創出型事業の開発・推進

夏休み・冬休みを中心に、市外・県外からの集客も見込める、メディア等とタイアップしたファミリー・イベントを開催。また、北九州スタジアムと連携したスポーツ大会の検討などに着手する。

会議・大会等

(1) グローバルMICE強化都市選定による国際会議誘致の強化

グローバルMICE強化都市の選定都市に提供される研修プログラムを強力な推進剤として国際会議誘致を強化する。ICCAへの加入、関係機関との協議会の設立、海外見本市・商談会への参加、ホームページの充実等を図る。

(2) 誘致マーケティングについての取組み

4 大学（九州工業大学、九州歯科大学、北九州市立大学、産業医科大学）、北九州市、北九州

商工会議所との連携協定を活用した誘致活動を行うほか、J N T Oからの情報収集、I M Eへの参加を行うなどでマーケティング活動に取り組む。

(3) 誘致セールスについての取組み

国際ネットワークのさらなる構築、首都圏への積極的な営業、西日本総合展示場・北九州国際会議場の効率的な利用の促進、主催事業にマッチした誘致営業、M I C E開催助成金を活用した営業等に取り組む。

(4) 開催支援への取組み

会議支援制度の拡充、新たなユニークバニユーの開発、産業観光などのエクスカージョンの活用等を行い、北九州市のP Rを図る。

また、増加する国際会議に対応するため他ボランティア団体との連携、コンベンションボランティア制度などきめ細かな誘致支援活動を行う。

### 貸館利用者の誘致・営業強化

(1) リピーターの定着化及び復活

過去の展示場の顧客データを分析し、会場利用がなくなった顧客に対して営業訪問を行い、復活開催してもらえるように集客支援等を提案する。

特にリピーター率が高い「自動車ディーラー」や「家電メーカー」、「ハウスメーカー」等に対し引き続き営業フォローに努めていく。

(2) 新規利用者の開拓

従来の展示会・見本市の誘致に加え、展示場・会議場での新たな利用形態を模索し、新規分野（コンサートやゲーム大会、検定試験会場など）を中心に営業活動を展開する。

(3) 「にぎわいイベント」への取組み

主に夏休みや冬休みの対策として、ファミリー向けの「にぎわいイベント」の誘致に取り組む。平成27年度には、夏休みに開催した「トミカ博 in KITAKYUSHU」については、2年ぶり2回目の開催であったが、初回開催を上回る動員数となった。継続的に「にぎわいイベント」を開催していくために、会場利用等の条件の整備、コンテンツの選定を十分に見極め、ファミリーに喜んで来場してもらえる「にぎわいイベント」を構築していく。

(4) 地元メディアとのネットワークの構築

「にぎわいイベント」を成功に導くためには、地元メディア（新聞、テレビ、ラジオ）との連携が必要であり、そのためのネットワークを強化していく。

さらに全国のコンベンション施設や産業振興団体等と利用情報の交換や共有を図ることで、共催・協力に向けた体制を構築していく。

(5) 広域行政連携の推進

「にぎわいイベント」において広域からの集客を図るため、北九州市の広域行政連携を活用する。

### 広報・宣伝、地域連携

(1) 広報・宣伝

協会ホームページに加え、情報誌「催事案内」の発行、JR小倉駅のマルチビジョンによるPR、新聞広告、JR主要駅やモノレール各駅へのポスター掲示などによる広報活動を実施する。

(2) 地域連携（小倉駅新幹線口連絡協議会などとの連携）

小倉駅新幹線口のにぎわいづくりと魅力アップに貢献していくため、「あるあるCity」「北九州スタジアム」などと連携したイベントの開催の検討、小倉駅新幹線口地区振興連絡会の活動に積極的に取り組む。

## 管理・運営

(1) サービスの向上

利用者アンケートや利用実態等を参考に貸出備品等の充実を図る。インターネット接続環境に関しては、Wi-Fiフリースポットの再整備を含め、より便利な環境づくりに努める。また、北九州スタジアムとの連携を図る上で、当施設でできるハード・ソフト面でのサービスメニュー等、来場者への満足度向上に繋がるような利用方法を検討する。

(2) 職員の資質・能力の向上

多様化するニーズに適応できる人材育成促進のため、企画力やコミュニケーション能力を高めるための研修等を積極的に導入する。引き続き個人情報保護や情報公開などコンプライアンスの遵守等も意識しながら、職員資質、能力開発を図ることにより、全般的なサービスの質の向上を目指す。

(3) 施設・設備の改修等

展示場・会議場を、常に安全・快適に利用していただけるよう、老朽化している施設・設備・備品などの予防保守や改修・改善に適宜取り組む。

(4) 展示場本館の対応等

本館については耐震改修工事の工期の設定を定例利用者等との利用日程の調整を慎重に行いながら準備を進めていく。また、北九州スタジアムの稼働にあわせて、小倉駅新幹線口地区のMICE施設の1つとして、外観上・機能上の整備を行う。

## V 平成 28 年度予算

### 1 収支予算書(総括表)

自 平成 28 年 4 月 1 日

至 平成 29 年 3 月 31 日 (単位:円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業会計	法人会計	内部取引控除	合計
<b>I 一般正味財産増減の部</b>					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
基本財産運用益	6,295,000	1,989,000	4,388,000	0	12,672,000
展示場設備受贈益	25,847,000	8,163,000	0	0	34,010,000
特定資産運用益	3,753,000	109,000	0	0	3,862,000
受取会費	4,800,000	0	0	0	4,800,000
事業収益	277,428,000	310,179,000	0	0	587,607,000
受取補助金等	328,958,000	0	0	0	328,958,000
受取負担金	24,376,000	36,791,000	0	0	61,167,000
雑収益	10,013,000	4,839,000	0	0	14,852,000
経常収益計	681,470,000	362,070,000	4,388,000	0	1,047,928,000
(2) 経常費用					
事業費	762,823,000	243,710,000	0	0	1,006,533,000
管理費	0	0	17,543,000	0	17,543,000
経常費用計	762,823,000	243,710,000	17,543,000	0	1,024,076,000
評価損益等調整前当期経常増減額	▲81,353,000	118,360,000	▲13,155,000	0	23,852,000
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0
当期経常増減額	▲81,353,000	118,360,000	▲13,155,000	0	23,852,000
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外費用増減額	0	0	0	0	0
他会計振替額	57,056,173	▲61,303,827	4,247,654	0	0
法人税、住民税及び事業税	0	23,000,000	0	0	23,000,000
当期一般正味財産増減額	▲24,296,827	34,056,173	▲8,907,346	0	852,000
一般正味財産期首残高	1,478,025,124	232,450,508	▲11,726,470	0	1,698,749,162



一般正味財産期末残高	1,453,728,297	266,506,681	▲20,633,816	0	1,699,601,162
<b>II 指定正味財産増減の部</b>					
基本財産運用益	0	0	4,468,008	0	4,468,008
一般正味財産への振替額	25,847,000	8,163,000	4,388,000	0	38,398,000
当期指定正味財産増減額	▲25,847,000	▲8,163,000	80,008	0	▲33,929,992
指定正味財産期首残高	448,449,613	141,618,561	760,285,622	0	1,350,353,796
指定正味財産調整額	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	422,602,613	133,455,561	760,365,630	0	1,316,423,804
<b>III 正味財産期末残高</b>	1,876,330,910	399,962,242	739,731,814	0	3,016,024,966

## VI 役員名簿

平成 28 年 7 月 1 日現在

役職名	氏名	備考
理事長	利島康司	北九州商工会議所 会頭
専務理事	中溝明弘	(公財)西日本産業貿易コンベンション協会
理事	加茂野秀一	北九州市産業経済局長
〃	田中亮一郎	北九州市にぎわいづくり懇話会 副座長
〃	安部高子	北九州商工会議所女性会 副会長
〃	廣瀬香	(一社)九州経済連合会 社会資本部長
〃	村上英治	(一財)九州産業技術センター 常務理事
〃	関宣昭	NPO法人里山を考える会 代表
監事	松原英治	北九州市会計室長
〃	羽田野隆士	北九州商工会議所 専務理事